

令和2年9月市議会 教育厚生委員会資料

所管事項調査に係る資料

目次

- 1 全天候型子ども遊戯施設の基本設計について…… P1～10

こ ども 部

令 和 2 年 9 月

1 全天候型子ども遊戯施設の基本設計について

(1) 施設の概要

ア 施設の主な利用対象者

乳幼児から小学生まで

イ 施設のコンセプト

子どもが思いっきり遊びながら成長できる施設

ウ 施設の機能

(ア) 遊び場機能

- a 十分かつ適切な広さをもつ室内の遊び場空間の整備
- b 子どもの好奇心や想像力を掻き立てる魅力的な遊具の設置
- c 体全体を使って遊べる大型遊具の設置
- d ユニバーサルデザイン遊具の設置
- e 発育段階に合わせ、子どもが安心して遊べるゾーニングの設定
- f 自然の豊かさや四季の移ろいを感じながら遊ぶことができる遊び場空間の併設

(イ) 休憩・交流機能

- a 保護者が子どもの様子を見守りながら休憩や交流できるスペースの設置

(ロ) その他の機能

- a ベビーベッドや授乳室、オムツ替えスペース、ベビーカー置場を設置するなど、乳幼児を持つ保護者にもやさしい施設
- b 多目的トイレを設置するなどバリアフリーに配慮した施設
- c エントランス付近に、子育て支援情報などを発信できるスペースの設置

エ 施設の設備等及び規模

機能	区分	設備等	規模
遊び場機能	0-2歳	・木製のボールプール、木製の積み木 など	約 1,500 m ²
	3-5歳	・大きな積み木、箱、ブランコ、滑り台 など	
	小学生	・ボルダリング（低・高学年用） ・トランポリン（低・高学年用） ・ネット遊具 など	
	障害児	・体を揺らす遊具（ハンモックやブランコ） ・ぶら下がったり、しがみついたりする遊具 など	
休憩・交流機能	共通	・多目的室・休憩スペース、見守りスペース など	
その他の機能	共通	・授乳室、多目的トイレ、乳幼児用トイレ、おむつ替えスペース、救護室、トイレ、管理室、倉庫、機械室 など	

オ 施設の建設場所

「街のエリア」の「賑わいのゾーン」に新設する。（P2参照）

■街のエリア整備イメージ図



施設のコンセプト

子どもが思いっきり遊びながら成長できる施設

- 子どもたちが「ワクワク」し、何度でも挑戦したくなる遊戯空間
- 風や光を感じ、季節を体感できる遊戯空間

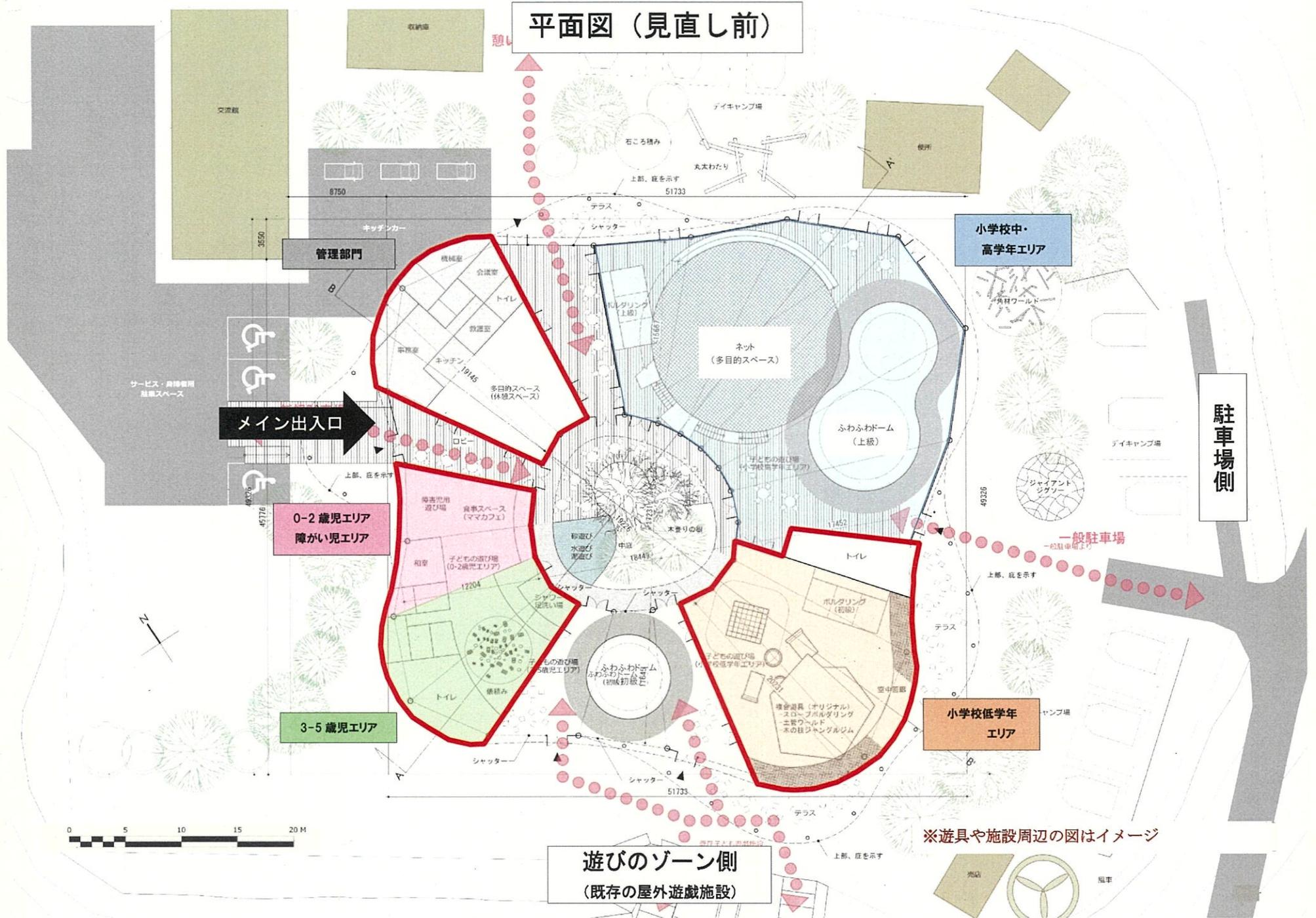
(2) 基本設計について

令和元年度の基本計画策定時の基本設計平面図（見直し前）について、子育て関係団体や専門家との意見交換を踏まえ、次のような見直しを行い最終的な基本設計の平面図（見直し後）を作成している。

項目	見直し前（P 4 参照）	見直し後（P 5 参照）
出入口	駐車場と反対側をメインとする複数（4 か所）	駐車場側からの1 か所に配置する。
遊戯空間	・土足と靴を脱ぐエリアの混在 ・建物内の各エリアが、それぞれ壁で仕切られた空間	遊戯空間はすべて靴を脱いで利用するエリアとし、各遊戯エリアは壁で仕切らない。
土足エリア	小学校中高学年エリア	遊戯空間及び多目的スペースを除くエリア
空調設備	部分空調	全館空調
中庭	施設の中心に中庭を設置し、砂遊び、水遊び場、木登り等ができる	採光・換気を取り込むために中庭を設置する。 なお、水遊び場は既存の屋外のものを活用することとし、砂遊び場は新規に屋外施設で検討するため、シャワー室は施設内に設置しない。
親の見守り空間	0～5 歳児エリア及び多目的スペース	各スペースにベンチを設置するとともに、壁の仕切りをなくし各エリアや多目的スペースからの見通しをよくする。
トイレの場所	・3-5 歳児エリア ・小学校低学年エリア	メインのトイレを施設の出入口（土足エリア）に設置する。 また、多目的トイレやオストメイト使用のトイレを0～2 歳児エリア（靴を脱いで利用するエリア）付近に設置する。
ロッカー	—	ロッカーは施設の出入口に設置する。また、各エリアのベンチの下も荷物置き場として活用する。
ベビーカー置き場	—	各遊戯空間の近くに設置する。
その他、コロナなどの感染症、遊具の衛生対策	—	手洗い場については、トイレの横、多目的スペース及び施設の出入口付近に設置する。 また、遊具については、抗菌素材や定期的な消毒を実施する。 施設には窓を多く確保するなど、換気が十分できるよう検討する。

※子育て関係者団体等からの主な意見は「【参考】子育て関係者団体等との意見交換」（P8～10）に記載。

平面図（見直し前）



メイン出入口

0-2歳児エリア
障がい児エリア

3-5歳児エリア

小学校中・
高学年エリア

小学校低学年
エリア

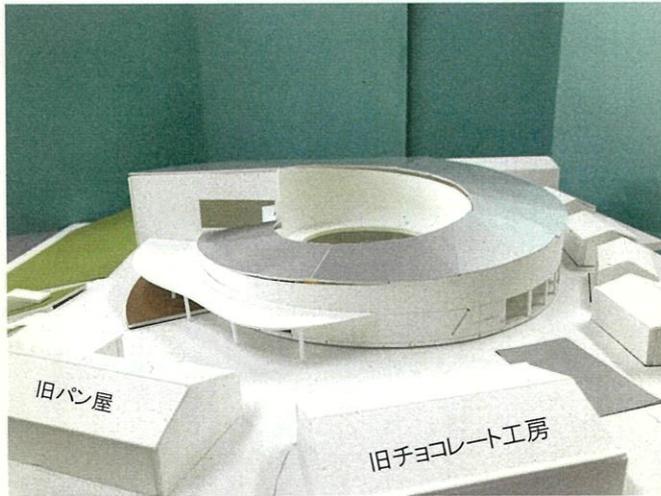
駐車場側

遊びのゾーン側
(既存の屋外遊戯施設)

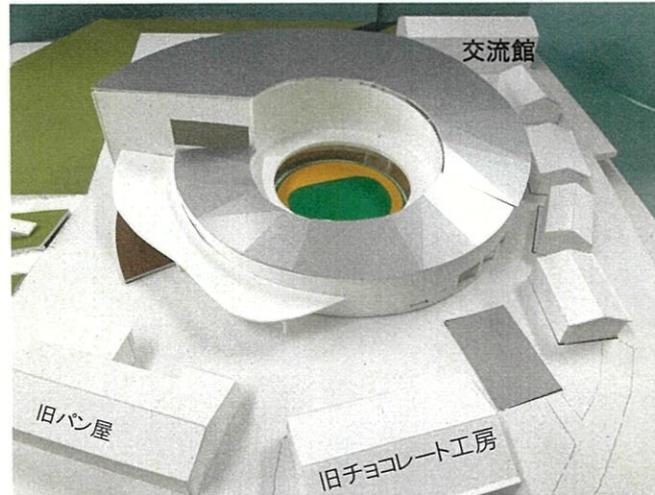
※遊具や施設周辺の図はイメージ



外観模型写真



南西側 俯瞰(1)



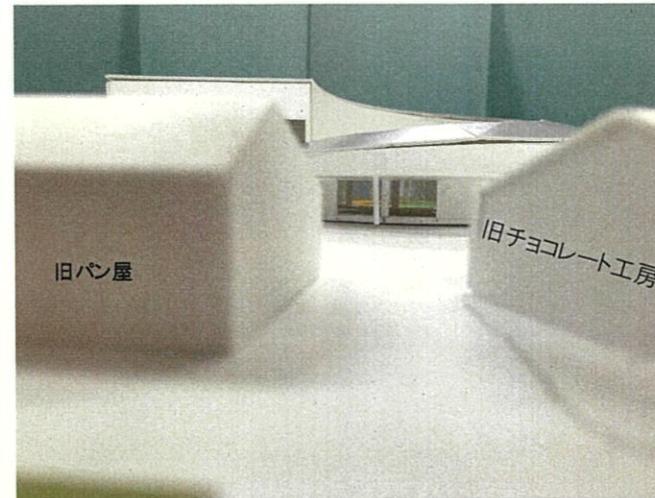
南西側 俯瞰(2)



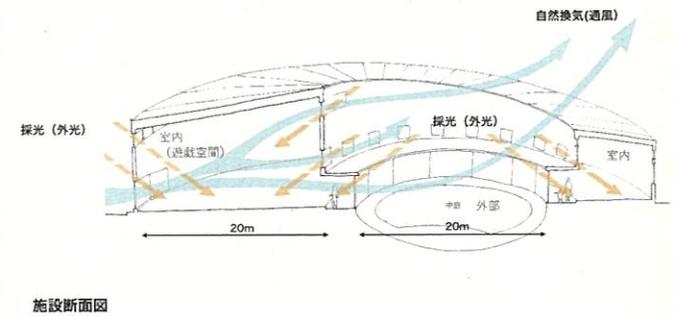
構造体(ラーメン構造)



メインゲート(1)



メインゲート(2)



施設断面図

換気・採光イメージ

(3) スケジュール (予定を含む)

令和元年度 基本計画策定
令和2年度 実施設計、土質調査、解体工事 (～令和3年度)
令和3年度 建築工事 (～令和4年度)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
基本計画	■			
実施設計		■		
土質調査		■		
解体工事			■	
建築工事等			■	■

【参考】子育て関係者団体等との意見交換

(1)意見交換した団体等

区 分	名 称
子育て支援センター (10 団体)	もりのクレヨン (桜馬場・片淵・長崎区域)
	風の子らんど (東長崎・橘・日見区域)
	ピクニック (淵・緑が丘区域)
	みなみ (戸町・小ヶ倉・土井首区域)
	ぴっぴ (三和・野母崎区域)
	ぴよぴよ (西浦上・三川区域)
	ひなたぼっこ (小島・大浦・梅香崎区域)
	きずな (東長崎・橘・日見区域)
	てとて (三重区域)
	にじのくに (市全域)
幼児教育・保育、学 校関係	長崎市保育会
	長崎市私立幼稚園協会
	公立保育所施設長会
	長崎市PTA連合会
専門家	長崎大学 名誉教授 小原 達朗
	活水女子大学 健康生活学部子ども学科教授 前田 志津子
	長崎総合科学大学 工学部工学科 建築学コース教授 橋本 彼路子
	トムテのおもちゃ箱 代表 高野 幸恵
	長崎市景観専門監 高尾 忠志

(2) 主な意見

項目	子育て関係団体 (見直し前)	最終案に対する意見
出入口	<ul style="list-style-type: none"> 自由に施設内への出入りが可能であり、安全性 (不審者対策) に不安がある。 子どもが勝手に屋外に出ていくリスクがあり、不安である。 出入口を1か所にして、受付でしっかり管理した方が安心して利用できる。 施設を安全に利用できるように、きちんと入退管理ができる施設が良い。 土日は利用者が多くなるので、人数制限や時間制限ができる施設が良い。 	—

項目	子育て関係団体（見直し前）	最終案に対する意見
遊戯空間	<ul style="list-style-type: none"> ・親も子どもも、遊戯空間を移動する際に靴を脱いだり履いたりするのは面倒である。 ・土足エリアも遊具を使うときに靴を脱ぐのであれば、全てが靴を脱いで遊べる空間が良い。 ・砂遊びなどの汚れや砂などが、裸足エリアに持ち込まれる恐れがあり、衛生面が心配。 ・靴を脱いだり履いたりする場所は1か所で、そのあとは各エリアを自由に行き来できる空間が良い。 ・他のエリアの遊具で遊ぶ際、靴を脱いだり履いたりするのが手間である。 ・他のエリアで遊んでいる兄弟姉妹に目が行き届きにくい。 	<p>【専門家】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがエリア間を自由に行き来でき、使いやすい施設になったところが良い。 ・多年齢（異年齢）が空間を共有でき、関わり合いが持てる施設に見直しがされているところが良い。
土足エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの靴の管理が大変である。（靴を脱いだり履いたりすると、子どもは靴を何処に置いたかわからなくなる） 	—
空調設備	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症対策として、全館空調にしてほしい。 ・ミストをするくらいなら、全館空調にしてほしい。 ・ミストでネット遊具やふわふわドームが濡れて使いづらくなるのではないか。 ・ふわふわドームは子どもに非常に人気の遊具であり、汗びっしょりになって遊ぶので、空調がないのは不安。 ・使用しない時期はあるかもしれないが、空調は設置した方がよい。 	—
中庭	<ul style="list-style-type: none"> ・砂遊びをした後、体や衣服に付着した砂を屋内の施設内に持ち込む可能性が高く、施設内が砂だらけになる可能性がある。 ・水遊び場は、屋外エリアにもあるので施設内には不要。 ・施設外での遊びと施設内での遊びを、はっきり区切った方がよいのではないか。 ・いろいろな要素を詰め込みすぎているので、絞った方がよい。 ・シャワーや足洗い場は、砂遊びや水遊びが施設内に配置しないなら、施設内には不要ではないか。そのスペースに遊びのスペースをしっかりとってほしい。 ・中央のスペースは、芝生などの何も無い空間でもよいのではないか。 ・中心の木は、施設内の見通しが悪くなるので施設内には不要。 	<p>【専門家】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外気を感じ、自然を感じられる核となる建物にしてほしい。 ・中庭も遊び場にふさわしく、夏にミストが発生したり、三輪車などで遊ぶ光景が想像できるのがよい。 ・施設内に取り入れることができなかつた砂遊び等については、施設外での設置を検討してほしい。

項目	子育て関係団体（見直し前）	最終案に対する意見
親の見守り空間	<ul style="list-style-type: none"> 子どもがどこで遊んでいるかを確認できる場所が必要。 子どもを見守るのに、あちこちの場所に椅子がたくさんほしい。 多目的スペースが、子どもが遊ぶスペースと別の部屋というのは不安であるので、高学年の子を見守りたいときに、近くに親がくつろげるスペースがあった方がよい。 	<p>【子育て関係団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3-5歳用スペースのベンチは、ベンチの上を子どもが走り回らないようにベンチの間隔を空けたり、ベンチの間に観葉植物などを置いた方がよい。
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の目に入るところにトイレの入り口があるのがよい。 障害児エリアの子は3-5歳児エリアまで行かないとトイレを使用できないので、0-2歳児と3-5歳児の真ん中にトイレがあった方がよい。 幼児用の便座、便器を備えたトイレにしてほしい。 乳児用のベットがあり、親子が一緒に利用できるトイレがよい。 	<p>【子育て関係団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多目的トイレは、車イスなどを使っている小学生でも利用できる広さや設備（おむつ替えができるベッド）がある施設がよい。
ロッカー	<ul style="list-style-type: none"> 子連れは荷物が多くなるため、子どもと一緒に遊ぶ時は貴重品以外の荷物はロッカーに入れて、身軽に利用したい。 	-
その他、コロナなどの感染症、遊具の衛生対策など	<ul style="list-style-type: none"> 出入り口付近などに手を洗ったりできる場所があるとよい。 遊具の消毒は定期的にしてほしい 換気、空調をこまめにできる設備の整備 	<p>【専門家】</p> <ul style="list-style-type: none"> 車イス利用者が利用しやすい施設（バリアフリー化、床の仕上、トイレ、貸し出し用の車イスの設置など）としてほしい。 木陰の下でくつろげる場所が必要である。 建物の周辺にもトイレが必要である。 建物周辺でも遊びができる仕組み作りが必要である。
食事・入館待合スペース	-	<p>【子育て関係団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設内は食べ物を禁止しないと、遊ぶスペースでお弁当やお菓子などを食べてしまう可能性がある。衛生的にもよくない。 遠足など、お弁当を持って雨の日に施設を利用した時に、お弁当が食べられる場所が近くにあったらよい。 <p>【専門家】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設内での食事が可能となれば、室内及び遊具への衛生面が懸念されるので、食事スペースは施設外で検討したほうがよい。 施設外に飲食や休憩（待合）できる施設が必要である。